

香川大学教育学部

附属坂出学園だより

～ 改革と周知～

第66号

2020.11



現在、大きな大学改革が推進されています。地域の発展に貢献し、地域に支えられる大学づくりがその一つのスローガンでもあります。少子化が進展する中、教員養成のあり方も大きく変わることが求められています。子供の数は減ってきていますが、障害を抱える子供たちはむしろ増えてきています。その意味で、特別支援教育に関わる教育実践と研究の高度化は、本教育学部において大きな意味をもっています。坂出学園の存在意義は大きいです。

香川大学教育学部長 野崎 武司



秋も深まってまいりました。今年度は、休校が長期に及び、皆様にはご迷惑、ご心配をおかけいたしました。各校のGIGAスクール構想によるICT関連の整備も、年内には完了する見込みとなりました。まだ気の抜けない状況ではございますが、一人一人の子供に最も適した「新しい学び」の方法を日々模索しながら、努力してまいりたいと思っております。至らないところが多々あるかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

香川大学教育学部附属特別支援学校 校長 青山 夕夏

新型コロナウイルス感染症の影響に負けない取り組み ～休校中のオンラインの取り組みや日常の感染対策の取り組みを紹介します～

幼稚園



正門で元気チェック



しっかり手指の消毒

「元気おたずねカード」を持って笑顔で登園。「元気です」の声から一日をスタートしています。お弁当やおやつの前には、自主的に手を消毒したり、友達に呼びかけたりしています。

小学校



Kadypeを利用した遠隔授業



小学校では4月30日～5月29日の期間、Kadypeを利用して遠隔授業を実施しました。子供たちは友達や先生の顔を見ながら授業に参加できることをとても楽しみにしていました。

中学校



オンライン朝の会



オンラインでの探究

中学校では休校期間中は、Zoomを使用しているオンライン朝の会を実施しました。また、学校が再開された後も、CANの時間にZoomを使って県外や香川大学の専門家とつながり、探究する生徒の姿が新たに見られるようになりました。

特別支援学校



やまももマスク



テレビ朝礼

臨時休校中に職員で「やまももマスク」を作製して全家庭に配布しました。全校朝礼は、事前に録画編集した動画を各教室で視聴する「テレビ朝礼」を行っています。

環境を通して行う教育の中の学び

① 生活・遊びの充実

【年少児】

幼稚園での生活に少しずつ慣れ、先生と一緒に遊びながら、周りの友達存在に目が向き始めます。園にあるおもちゃや花、虫、水、砂などにも興味をもち、自分から関わってみる中で、幼稚園で遊ぶ楽しさを感じています。



電車の道を作ろう！

ほくも大きいスコップで掘ってみたい！

教師との安定した関係のもとに、自分のやりたい遊びや友達に自分から関わっていきこうと少しずつ世界を広げ始めている子供たちの姿があります。



バーベキューしよう

葉っぱのお肉にコショウ(砂)を振って、味つけするよ。

【年中児】

2か月の休園を経て、進級児と新入児が一緒に園生活が始まりました。梅雨時で、なかなか外で遊べない日が続きましたが、すぐにやりたい遊びを見つけて遊ぶ姿が見られました。少しずつ、友達への思いが膨らみ始め、一緒に遊びたい友達ができています。



友達と一緒に楽しいの

ごっこ遊びや砂場遊びなどを心ゆくまで楽しむ中で、イメージを膨らませることを楽しんでます。やり取りを積み重ねる中で自分の思いが出せるようになり、ぶつかり合いも体験しています。互いの気持ちをうまく伝える手助けを教師にもらいながら、自分の気持ちを伝えていきこう、相手の気持ちを受け止めていきこうとする姿の育ちにつながっています。

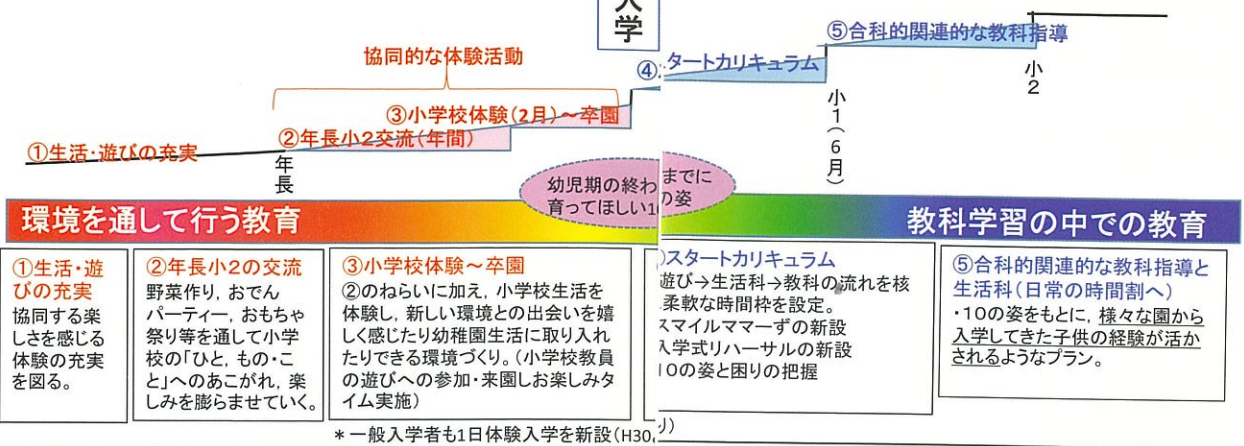
2学期は、暑い日が続くスタートでしたが、しっかり自分のしたい遊びに向かっていました。思い切り楽しむと、友達同士の関わりが広がるようです。友達の姿から、自分もやってみようとしたり、仲間に加わってみようとしたりしています。そのような小さな自分らしさの発揮を大切にしています。



ほくたち探検隊だよ

つながると面白いね。

学びをつなぐ附属坂出学園幼小接続の構想



① 生活・遊びの充実

【年長児】

<年長児としての喜びを感じて>

大きくなった自分を感じて張り切って入園間もない年少児のお手伝いに行く人がいました。一方、急にはお兄さん・お姉さんになれず、どう関わっていいか戸惑う瞬間もあります。一人一人が自分なりの年下の人たちの想う優しさを出していました。



ぼくは青組のお兄さん

〇〇くん(黄組)がほしがっていたダンゴムシがいたよ！ほしいの？はい、どうぞ！

<自分たちで生活をつくる>

年長児になって楽しみな事は「リズム室が使える」という特権！広い場所や大きな物は、友達と共に考え、安全に気を付ける姿を育みます。



ジャンプ台を作ったよ

〇〇ちゃん、高くマ怖いでしょ？ほくが持つておくから大丈夫！跳んでみて！

<自分への自信を感じながら友達と共に>

夕涼み会やカレーライスパーティーという大きな行事をクラスみんなで作り上げました。自分らしさを生かし、時に友達とぶつかりながら、共にやり遂げることの心地よさを知っていきました。



夕涼み会で迷路をつくったよ

私たちが作った蛇の海だよ！支えてあげるから渡ってごらん

スタートカリキュラムの取り組み

登校後に、思い思いの遊びを通して、新しい友達や教員と仲良くなる時間(なかよしタイム)を設けました。自分のしたい遊びを見いだせるように、活動場所を体育館と教室に分け、好きな遊びを選べるようにしました。体育館では、ろく木や縄跳び、お手玉やブロック等を、教室ではお絵かきや折り紙等をして楽しむ姿が見られました。遊びの内容は、幼稚園の先生方から子供たちが経験してきた遊びを聞き取り、取り入れました。最初は、緊張した表情で、うろろろして自分の居場所を探していた子どもたちも、次第に遊びに夢中になり、笑顔が増えていきました。経験したことのある遊びを行える場があることで、安心感が生まれ、自然と新しい人間関係をつくることに向かっていくことができると感じました。自由遊びの後には、自分が楽しかったことを学級の友達に紹介したり、学級のみんで手遊びや絵本の読み聞かせ等を行ったりして、一つの空間で共に過ごす時間を増やしていきました。



なかよしタイム



絵本の読み聞かせ

教科学習の中での教育へ

⑤ 遠隔授業の取り組み

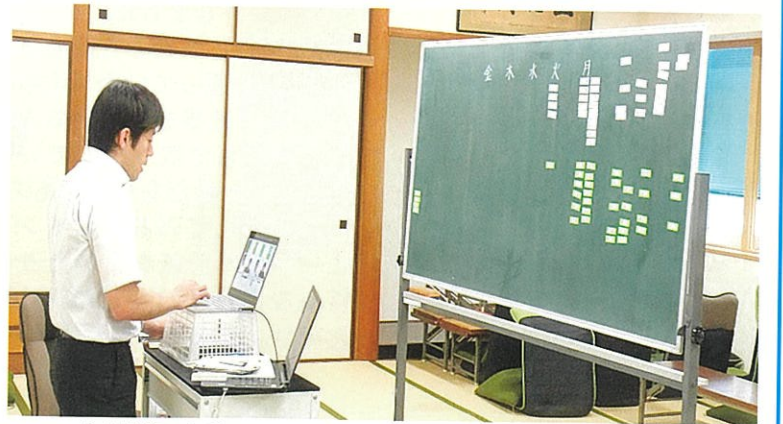
桜の花が舞う頃、小学校への期待を膨らませて入学してきた69名の1年生。しかし入学後3日で、コロナウイルス感染流行のために休校になってしまいました。そんな中で、1年生の子供たちと早く仲良くなりたい、小学校生活の楽しさを伝えたい等の思いから始めたのが、香川大学のKadypeを使ったオンライン授業でした。

入学して間もない子供たちは、まだじっと座って話を聞くことさえ難しい状況だったと思います。本来ならスタートカリキュラムで仲よし遊び等をしながら徐々に45分の授業に慣れていくはずだったのですが、オンライン授業では最初から45分という時間設定があったので、子供たちの負担にならずに楽しく学べるように授業の内容を工夫しました。国語では「1年〇組の◇◇です。好きな食べ物は△△です」という自己紹介から始めました。パソコン画面に映った友達や先生の顔を見ながら紹介を聞くことで、お互いのことを知っていくきっかけができたと思います。また、算数では数探しやいろいろな形の箱を使った工作等、遊びの要素を多く取り入れました。子供たちが見つけた数や作った作品を発表すると、名前磁石を移動して誰が発表したかを把握してたくさんの子供たちに発言の機会を与えられるように工夫しました。この他にも図工や音楽、体育等、子供たちに「小学校って楽しそう」「早く学校で勉強したいな」と思ってもらえることを願いながら、授業を進めました。

オンラインの授業を始める前は、「本当にできるのかな」「1年生には難しいのではないかな」という思いがありました。しかし、今は実施してよかったと思っています。双方向での交流ができたことで、学校が再開された時の子供同士の心の距離、子供と先生との心の距離は、確実に近くなっていたと感じています。



図工の遠隔授業



名前磁石を使って多くの子供が発表できるように工夫

総合的な学習の時間の取り組み (5年生)

5年生は未来学習の一環として、屋島野外学習を行いました。例年と違って宿泊することやいかだ作りはできませんでしたが、それに代えてビーチコーミングや砂文字作りを行いました。ビーチコーミングでは、砂浜の生き物を探して観察しました。どんなところにいるのか、どうすると捕まえやすいのかなどを考えながら取り組んでいました。砂文字作りでは、各グループで作りたい一文字を決め、砂で文字を作っていました。



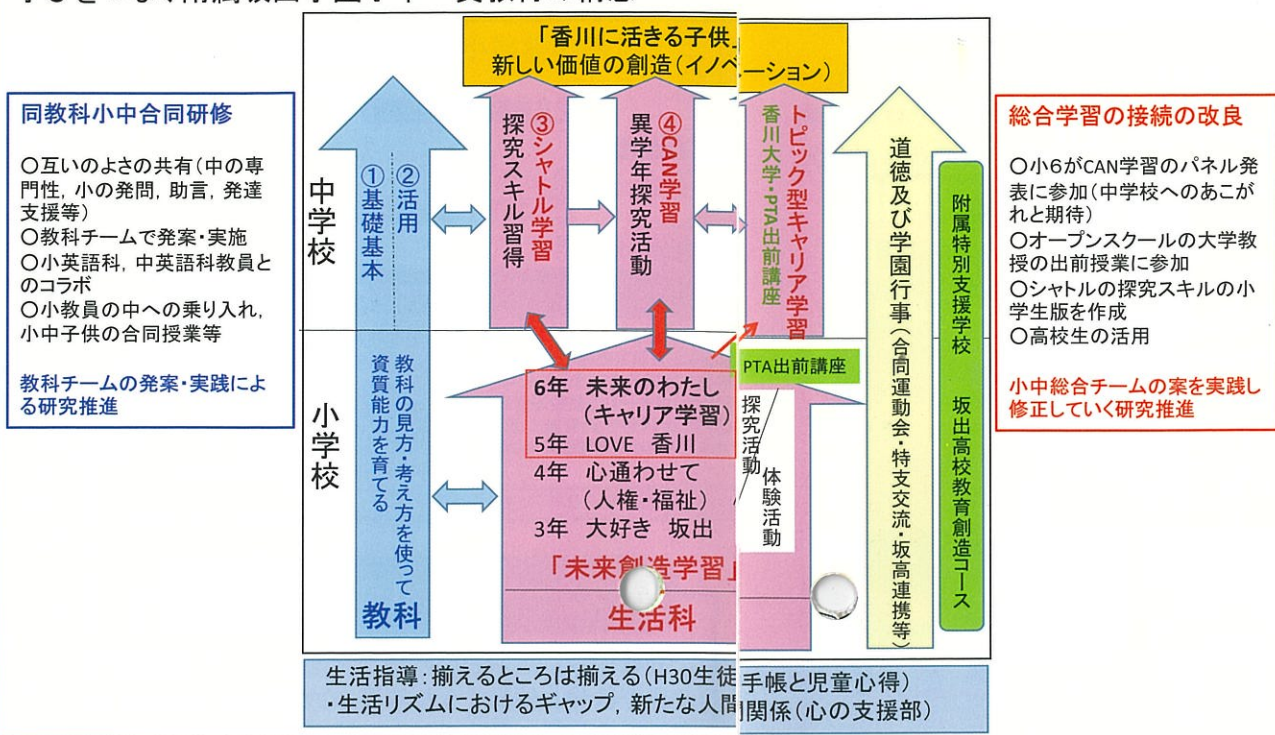
生き物探し



砂文字作り

すればはっきりと文字が見えるのかや崩れないように作れるのかをグループで話し合いながら、道具を使ったり、水をかけたり、海藻を使ったりと試行錯誤の様子が見られました。子供たちからは「グループで協力して想いの込めた一文字が作れてよかった」「水を運ぶのが大変だったけれど、完成した時の達成感があった」などの感想が聞かれ、普段の生活とは違う環境の中だからこそ、学んだことも多かったと思います。

学びをつなぐ附属坂出学園小中一貫教育の構想



<めざす子供の姿>

自主・自律

共生・協働

探究・創造

総合的な学習の時間の取り組み (6年生)

6年生の未来学習では、「未来プロジェクト」として、自分の将来について考えています。自分の興味のある仕事について、その仕事に就くために必要な資格や方法、仕事の内容などを家の人に尋ねたり、本やインターネットで調べたりしました。そして、調べたことをまとめて、友達と交流しました。友達と交流することで、様々な資格が必要な職業があることや思っていた以上の仕事の内容があることを知った子供たちは、「仕事をしている人はどんな気持ちで取り組んでいるのだろう」と新たな疑問をもち、その仕事をしている人にインタビューしたり手紙を書いたりして尋ねることにしました。仕事の大変さ、仕事のやりがいなど



こんな仕事があるんだね



たくさんの方々から返事をいただきました

について、実際に仕事をしている人からのお返事をいただいて、「どんな仕事にも大変なことがあるけれど、やっていて良かったと思えるやりがいもあるんだ」と仕事への理解を深めていました。

語り合いの時間

昨年度から、答えのない問いに対し、参加者全員で問い、考え、語り、聴き合うことを通して、自らの考えを深めていく「語り合いの時間」という授業を設定しています。実際に、参加者で選択するテーマは、次のようなものがありました。

- ・子供と大人、どっちが得？
・ウソをつくのは悪いこと？
・「カッコいい」ってどんな人？
・勉強するのは何のためか？
・好きなわけではないけど才能があることと才能はないけど自分が好きなこと、どっちを仕事にする？ など



授業後の生徒の振り返りからは、「友達のいろいろな考え方を聞けて、考えさせられました」、「こんな素朴な疑問について、こんなにも深く考えることはなかった」、「答えがないことについて考えることは、難しいけど楽しかったです」などの意見が見られました。

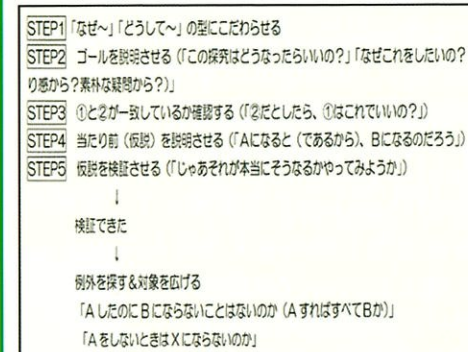


自分たちで決めたテーマについて語り合う

共創型探究学習CANでの探究

～仮説の設定にこだわる教師の関わり～

これまでのCANでは、生徒の興味・関心に基づいてテーマ設定を行い、探究活動を進めてきました。その中で、探究したいテーマは見つかるものの問いや仮説の設定がうまくいかず、課題追究の方法や結果の分析に課題が残るクラスターも見られました。そこで今回は、下の図(STEP1～5)のように教師の関わりを細分化し、問いや仮説の設定を促すことに取り組みました。



～「CANの日」での多様な他者との関わり～

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、活動が制限される中で、メールやオンラインでの対話ツールなどを利用して専門家の指導や助言をいただくクラスターが多くありました。「CANの日」では、専門家のアドバイスを基に校内で実験や調査を行い、生徒は活発に探究活動を行いました。9月11日(金)に実施された「CANの日II」では、教育実習生や坂出高校の生徒も加わり、生徒の探究活動をサポートしてくれました。



「CANの日」に実習生も探究をサポート

特別支援学校の校訓は「自立」。小学部・中学部・高等部と、それぞれの発達段階に応じて将来の自立をめざした取り組みを行っています。今回は、各学部における「自立」をめざした特徴ある教育課程での児童生徒の活動の様子を紹介します。

小学部

【自分の課題に自立的に取り組む「チャレンジタイム」】

小学部の目標は「日常生活での自立」です。水曜日以外の5時間目に「チャレンジタイム」を設けています。学習面・運動面・お手伝いや余暇活動につながる内容など、個々の課題に向かって自立的に取り組めるように設定しています。自ら取り組みたくなる活動の内容や順番を考え、支援ツールを使って何をどれくらいすればいいのか分かりやすく伝え、できた時にはしっかり評価して、児童が自分で目標をもって取り組めるようにしています。また、頑張ったことをみんなの前で発表することで、自信につながるようにしています。



運動課題(フープ縄跳び)



お手伝い課題

中学部

【「パワーアップタイム」でコミュニケーションカアップ】

中学部の目標である「集団生活での自立」を達成するために、中学部独自の授業として「パワーアップタイム」を設定しています。この授業はコミュニケーション能力の育成を主眼に置き、1～3年生までが縦割りで4グループに分かれて取り組んでいます。内容としては、生徒自身がやりたいことを考え、話し合いをし、活動内容を決定していきます。決まった活動(ゲームなど)に友達とやり取りをしながら取り組む中で、実際場面でのコミュニケーションの方法を学べるようにしています。「〇〇さん、お願いします。」「ありがとう。」「どうぞ。」などの言葉がよく聞かれ、やり取りを楽しみながら取り組むことができています。



グループでの話し合い活動

高等部

【「ライフスキル」の取り組み～生活技術と時間を意識～】

高等部の目標は「社会生活での自立」です。高等部では、卒業後「社会人」として生活していくために必要であると思われる内容を教材化、単元化して授業を作っていくことが少なくありません。その中でも「ライフスキル」の授業は、主に生徒の生活技術の向上をめざすとともに、自ら見通しをもって活動する姿勢を身に付けることにも重点を置いた学習です。内容としては全体では清掃や運動、個別で資格や検定合格に向けた学習、アプリの使い方練習などに取り組んでいます。それぞれの知識や技術を高めることはもちろんですが、「時間を意識」「効率よく」、そのために「手順と省略」を考える力を身に付けることも大切にしています。



時間を意識した清掃

伝統ある「合同運動会」に代わる各校園の取り組み

インクルーシブな学校文化を象徴する附属坂出学園(幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校)合同での運動会は、新型コロナウイルス感染防止の観点から今年度は中止となりました。そこで、各校園で実施した「合同運動会」に代わる取り組みを紹介します。

幼稚園

9月16～18日の3日間に、学年ごとの運動会を実施しました。「今日は私のママが来る日」と喜んで表現したり、他の学年の開催日も「〇組さんのために頑張る!」と張り切ったりする姿がありました。園庭でのダンスは、応援してくれる家族の顔がよく見え、安心して踊ることができました。



元気いっぱい入場行進 ダンス「ウイルスおぼけをやっつけろ」



1日目の赤組親子競技 台風の目 2日目の黄組親子競技 だっこorおんぶ競争 3日目の青組親子競技 ドッジボール

小学校

運動会の練習では、例年、体育館で4クラスの児童が集まっていました。しかし、今年は体育館や特別教室など複数箇所練習場所を設け、Zoomを使って遠隔で指導しながらの練習も行いました。当日は、低・中・高学年で時間帯を分けての分散型運動会でした。学年団毎に子供と保護者の完全入れ替えを行い、その時に座席等の消毒を徹底しました。また、運動場に入れる人数を計算し、観覧人数を制限し、座席の場所を指定しました。いくつかの制限はありましたが、保護者の方の座席の前で演技できるように工夫することで間近で見られたことや親子競技で家族と触れ合い楽しむ時間があったことに、喜びの声を聞くことができました。子供たちは、練習の成果を発揮することができ、思い出に残るものになったようです。



やり切ったぞ!(6年生)

中学校

～挑戦に、リスペクト～

夏休み前に、各学年の有志によるプロジェクトが発足し活動を開始しました。ダンスの創作、曲の選定、構成もプロジェクトメンバーの話し合いで進められました。今年度は感染予防のため学年別の練習になりましたが、プロジェクトを中心に教え合いながら演技を創り上げることができました。本番終了後、感極まって涙する3年生や、1、2年生の学年の仲間と踊り切った達成感あふれる顔がありました。



決めた!(1年生)



笑顔で楽しく!(2年生)



最上級の気迫!(3年生)

特別支援学校

特別支援学校では、附属坂出学園合同運動会中止に伴い、延期していた春の運動会を秋に実施することを検討しましたが、コロナ禍において全校での実施は難しいと判断しました。そこで、今年度は、11月28日に実施の全校行事「ふれあい祭り」を運動会と兼ねて、児童生徒の表現活動の場とすることになりました。

今回は、9月17日に高等部で実施した「高等部スポレク祭」の様子を紹介します。

「2020」にちなんで聖火台やトラックタイマーを制作しました。当日の内容については「学習発表」というよりも、あくまで「生徒自身が楽しめるもの」を大事に考えました。ラジオ体操や徒競走の定番を盛り込みつつも、生徒は運動場を走り回り、思いきり笑ったり励まし合ったりと有意義な時間を過ごしました。



笑顔で力いっぱいの演技

これまで配属のスクールカウンセラー (SC) やスクールソーシャルワーカー (SSW) の先生に加えて、今年度より、香川大学医学部のスクールカウンセラー (SC) 3名の先生に校種別に入らせていただくことになりました。

入江 輝先生 (SC) 幼・小学校

主な勤務先：観音寺市役所相談支援専門員、丸亀市発達障害児支援協働事業・子育て支援相談事業、香川県親子カウンセリングアドバイザー、児童虐待保護者カウンセラーなど。



ひとこと：勤務2年目で主に幼小で相談支援活動を行っています。保護者の皆様の想いや願いをお聞きし、先生方とできることを考えながら、子供たちと向き合っています。幼稚園での子供たちは、日々自分の「好き」を追求し、成長は著しいものがあります。そこで育てた目の輝きを、小学校でもさらに活かしていけるようなお手伝いができたらと考えています。

田中 彩先生 (SC) 小・中学校

主な勤務先：香川大学保健管理センター、丸亀市発達障害児支援協働事業、香川県警親子カウンセリングアドバイザーなど。



ひとこと：学園のSCとして4年目になります。昨年度は小学校の先生方と協働し、ソーシャルスキルに焦点を当てた授業を行いました。また、小学校では放課後にケース会を開いています。校長先生をはじめ管理職・担任の先生、養護教諭の先生と、子供たちがより楽しく過ごせるようアイデアを出し合っています。カウンセリングでは、幼～小、小～中へと相談が繋がっていくケースが多く、継続して支援ができる附属学園の良さを感じています。

藤澤 茜先生 (SSW) 小・中学校

附属坂出学園の子供たちとはSSWとして関わらせていただいています。附属坂出学園以外では、香川県教育センター学校支援アドバイザー、香川大学教育学部附属高松中学校SSW、善通寺市教育委員会SSW・スーパーバイザーなどもしております。日々の活動の中



で、強みを共有しながら、一人一人の生活を皆で支えていけるよう、皆様の思いを確認し、協働したり、学園の先生方と共に検討したりしています。校内を巡回していると、たくさんの子供の会話や様子からエネルギーをもらえます。まずは、誰にとっても身近な存在になり、自然と「支え合い」ができる関係がもてるように、活動を重ねていくつもりです。

川人 潤子先生 (SC) 小学校

今年度から附属坂出小へスクールカウンセラーとして伺っております。日頃は、香川大学医学部臨床心理学科の教員として、心理士の育成、さらにうつや肥満に関する心理学的研究をしております。大学教育に携わって約10年ですが、その傍らで病院や高等学校での個人相談、乳幼児対象の発達検査・相談を経験しました。坂出小では、保健室を拠点に、児童の皆様とお話をしたりして、交流させていただいております。また、心の支援部の皆様と相談しながら、今後の支援方法を検討しています。もし校内でお目にかかれましたら、お気軽にお声掛けください。



谷淵 真也先生 (SC) 中学校

主な勤務先：香川大学医学系研究科臨床心理学専攻准教授。



これまでに、広島県で中学校、高校、大学学生相談、総合病院精神科で心理相談に従事してきました。

ひとこと：今年度4月に広島から引越してきました。香川大学に勤務し、そのご縁で中学校のスクールカウンセラーになりました。

生徒や保護者の皆さん、先生方、そして学校の強み(ストレンクス)を見いだして活用し、生徒が様々な発達課題や困難を乗り越えて成長していくお手伝いをします。

長谷 綾子先生 (SC) 特別支援学校

【香川大学医学部臨床心理学科 心理実践職能学講座 講師】



個別相談の合間に校内を歩き、教室の様子を拝見しています。先生方の教育的関わりに児童生徒が呼応し、一つの学習を終える一そういったごく日常的な一コマも、先生、生徒、そして保護者の皆様のこれまでの積み重ねがあつてこそと思うと、とてもまぶしく感じられます。2学期は高等部の生徒さんと全員面接を予定しています。先生方のご提案で、「自分のことを話す/困っていることを話す」練習になれば、というコンセプトです。SCとして児童生徒、保護者の皆様の心の支援に努めたいと思います。

園児との遊びの中で

幼稚園では、子供への関わり方や自分の子育てについて悩みや不安を感じている保護者に対して、その思いを十分に受け止めながら、一緒に考え、共に子供の成長を支えていけるような援助を入江先生が担ってくれています。

入江先生が幼稚園の勤務のときには、子供と共に遊びの中に入り一緒に過ごすことで、一人一人の子供との間に信頼関係を作りだし、遊びの中で子供の言動や表情から、子供の心に寄り添い、その子の考えや思いを大切にしながら支えてくれています。そして、遊びの中で見える子供の姿や、友達や先生との関わり方、保育環境など、保育がより豊かになるよう一緒にサポートしてくださっています。



進んで子供たちの中へ

また、小1プロブレム等の課題を踏まえ、幼小連携接続にも大きな役割をもち、一人一人の育ちを見取りながら小学校との連携も大切にしています。

SCやSSWの先生は、相談だけでなく、日常生活の中で、すべての子供たちに積極的に関わってくれています。

身近な存在となるために

中学校では、すべての子供たちの日々の様子を理解しつながらの機会の確保のひとつとして、SCやSSWの勤務日に各教室を順番に回り、昼食時間を一緒に過ごしています。昼食後に、一緒にカードゲームを行うことで、日頃から関係性を築くことができ、SCやSSWを身近に感じる状況づくり、何気ない会話からふと本音を語り合えるような環境づくりにもつながっていきます。そのため、日々機会を見つけては、学校行事や活動に子供たちや先生と共に参加しています。

「SSWって何?」と興味をもって聞いてくれる子供もおり、うれしい気持ちになります。悩みを一人で抱え込まない、支え合いのできる自立の力をもてるよう、今、この時に「相談してもいいんだ」や「相談できる場があるんだ」と体感してもらうことも大切な活動の一つと感じています。SC・SSWへの相談件数は、昨年度が幼小中合計192件で、年々増加傾向にあります。その相談内容をすべての子供たちにも普遍化しながら、家庭・学校の日常生活をサポートしていきたいと思



授業にも参加して身近な存在に

心に寄り添うサポートを

小学校では、心の支援部を中心に子供たちの心に寄り添うサポートを行っています。年度の初めには、テレビ放送で心の支援部のメンバー紹介を行い、悩んだ時・悲しい時にサポートすることを子供たちに伝えました。また、毎月、心の支援部から『教育相談だより』を発信し、学校の子供たちの様子やカウンセリングの予定をお知らせしています。他にも、「WOWW(ワウ)アプローチ」で教室を巡回し、子供たちのよさを見付け承認し、自尊感情を高める取り組みを行っています。保健室前には、「心の支援部

テレビ放送でお知らせ

ボード」を設置し、これらの活動が分かるよう周知しています。



心の支援部ボード

新型コロナウイルスによる休校中～後の心のケアの実施

休校中、入江SC、田中SC、藤澤SSWにより、幼・小・中対象の電話カウンセリングを行いました。期間中の相談は14件で、外出自粛によるストレスや不安を訴える子供への接し方などが寄せられました。また、休校明けには子供たちの心身の変化を把握するために、小・中全生徒を対象に「心と身体のチェックリスト」を実施しました。

小学生は「先生や友達に会えてうれしい」と学校再開を喜ぶ明るいコメントが多く見られ、見ているこちらまで元気をもらうことができました。一方で、身体の不調を訴える児童も多く、生活の変化に適応していく難しさがうかがえました。中学生は、学年が上がるごとに心身の変化が大きく、今後の生活を心配するコメントも見られました。チェックリストを集計し、心身の変化が大きい児童・生徒、または個別相談を希望する児童・生徒に対し、担任や養護教諭と連携し声かけを行いました。

新型コロナウイルスによるストレスはこれからも続くと思われ、心の支援部では、子供たちの心のケアを第一に、引き続き見守っていきたく思います。

学校運営協議会の開催

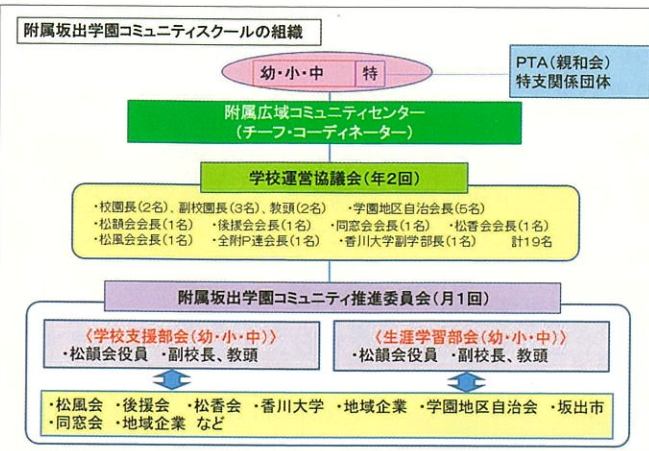
現在、コミュニティスクールとして「地域と共にある学校づくり」を進めている学校が全国的に広がりを見せ、附属学校においても、「地域と共に歩む、地域の中でなくてはならない存在意義のある学校づくり」が求められています。

そこで、附属坂出学園においてもコミュニティスクールを立ち上げるために、これまで組織の構想や実施可能な取り組みを積極的に進めてまいりました。

その特徴は2点。保護者や保護者OB、大学職員、教員OB、同窓会、企業など、地域を越えた幅広い教育人材が熱心に関わってくれています。この「人ネットワークの組織化と広がり」こそが大きな特徴の一つです。もう一つの特徴は、「学校を核として様々な人が出会い、関わり合う生涯学習の場づくり」です。地域の方々が自由に参画できる活動を生み出し、子供たちと一緒に関わることで、対人関係や社会性といった大きな教育効果が期待できます。

7月22日（水）、ようやくコミュニティスクールの舵取りを行う学校運営協議会を開催することができました。ここでは、近隣の自治会長さんや香川大学教育学部副学部長など附属坂出学園に関係する様々な方々の参加をいただき、組織を立ち上げることができました。そして、チーフコーディネーターは、前松韻会会長で、現在は保護者OB組織の松香会会長をしていただいている植田博司様をお願いし、今後中心となってリードしていただくことになりました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の大きな影響により、十分な取り組みができない状況にあります。中長期的な視点をもちながら、今後どのような取り組みができるのかを検討していきたいと考えています。



第1回学校運営協議会の様子



チーフコーディネーター植田様のご挨拶

保護者から実習生へのメッセージ

9月14日（月）、幼小中4名の保護者の方から実習生約100名に話がありました。印象に残る実習生の授業や言動等について子供から聞いた内容、またそれについての会話から、保護者の方がどのような思いで子供に接し、教育実習と向き合っているかが伝わってきました。実習生にとっては、「子供一人一人を大切にす



る」という意味がより深く心に刻まれた有意義な時間となりました。

土曜メンテナンス

秋季運動会に向けた土曜メンテナンスを9月に中学校で実施しました。幼、小、中の保護者に参加を呼びかけたところ、30名を超える保護者が参加してください、正門や青雲の碑周辺、中庭、体育館裏、運動場などの清掃を行いました。わずか1時間でしたが、学校が見違えるほどきれいになりました。



幼稚園

～幼稚園にプロの料理人が来たよ～

今年も、年長児の畑でジャガイモが穫れました。すると自然に「カレーライスを作りたい」「年中・年少さんに食べてもらいたい」と願いが生まれます。しかし、今年は新型コロナウイルス感染予防のために、実施することが難しい状況でした。あきらめない子供たちが発案したのが「プロの料理人に作ってもらおうプロジェクト」。「食事処こめや」のご主人が快く引き受けてくださり、秘伝の調味料と子供たちが商店街の肉屋さんで買ったソーセージを入れて、絶品カレーを作ってくれました。多くの地域の方に支えてもらったカレーライスパーティーは、心に残る行事になりました。



ジャガイモが穫れたよ ソーセージを買った森崎商店さん 北濱果物店さんでデザートを購入 ぼくたちのジャガイモを使ってね

小学校

～幸せを呼ぶオレンジベスト～

本校の通学路となっている交差点では、毎朝、保護者と地域の方がボランティアで立哨をしてくださっています。保護者の皆様には、車の多い学園通りを中心に当番日を設定し朝早くから立っていただいています。また、その時の様子を学校へ報告いただき、子供たちへの通学指導に生かしています。



毎日見守ってくださる西山さん

写真の方は、地域のボランティアの西山俊生さんです。雨の日も晴れの日も、暑い日も寒い日も毎日子供たちのために立哨をいただいています。ありがたいことに「子供たちの笑顔を見ると私も元気もらえるんです」と語られ、登校する子供たちに声を掛けてくださっています。どちらのボランティアの方にも、附属坂出学園「幸せを呼ぶオレンジベスト」を着ていただいています。このベストが子供たちを見守ってくださる方の目印として地域に広がり、オレンジ色のベストを見たら子供たちが安心感を覚えられよう地域になるよう、多くの方と子供たちの安全を守っていききたいと思います。

中学校

～部活動での外部指導者のご指導～

茶道部は、茶道裏千家淡交会の田中慶子先生のご指導のもと、茶道の心得やお点前について学んでいます。今年はコロナウイルス感染防止のため、例年実施していたお茶会も見送ることとなりました。お点前を練習してお茶を立てる機会は少なくなったものの、座学を中心に先生から多くのことを学んでいます。茶道の歴史や海外での広がり、一つ一つの所作がもつ意味など、毎週田中先生から貴重なお話を聞き、茶道の魅力を改めて感じています。これからはwithコロナのお茶会のもち方についても、先生のご指導を仰ぎながら考えていきたいと思います。



茶道部の田中先生

女子バスケットボール部では、本年度より中西公子先生が外部コーチとして部活動の指導に参加してくださっています。中西先生の専門的なご指導のもと、夏休み中は、基礎基本の徹底による個人のレベルアップを目標に練習してきました。今は、11月にある新人戦に向けてチームでの連携強化に力を入れています。コロナ禍で例年とは違う大会になりますが、自分たちの力が発揮できるように頑張りますので、応援よろしくお願いたします。



女子バスケットボール部の中西先生

附属坂出学園への寄付のお願い

附属坂出学園を卒業した皆様をはじめ、本学園に関わっていただいた多くの皆様には、多大なるご協力・ご支援を賜り誠にありがとうございます。

皆様方からいただいた寄付金は、学校における部活動の充実、学校行事や授業等の援助など、附属坂出学園の子供たちの教育が一層充実するよう活用させていただいております。心より感謝申し上げます。

多くの皆様から、引き続き力強いご支援を賜りますよう、どうぞよろしくご依頼申し上げます。附属坂出学園を卒業された方、勤務いただいた先生方、企業の方々など、どなたからでもインターネットを通して寄付をしていただくことが可能になりました。



〈寄付の方法について〉

寄付の方法については、香川大学ホームページの寄付申し込みサイトから、クレジットカード払いが利用できます。

- ① 下の **寄付申し込みサイト** に入り、「寄付のお申し込みはこちら」のバナーをクリックすると、右の図のようなサイトに入ります。
- ② 「寄付用途」の入力項目は、「附属坂出学園（中学校、小学校、幼稚園、特別支援学校）のため」を選択してください。
- ③ その他の必須項目を入力いただき、手続きを完了させてください。

【申し込みサイトへ】 <https://www.kagawa-u.ac.jp/kikin/howto/>

〈税額控除制度などについて〉

寄付をされた方は、税額控除制度を受けられる対象となります。詳しくは、香川大学ホームページの次の参照サイト「税制上の優遇措置」の内容をご参照ください。

また、ご寄付をいただいた方には、ご了承を得てご芳名を香川大学ホームページに掲載するなど、末永く顕彰いたします。

【参照サイト】 <https://www.kagawa-u.ac.jp/kikin/>

編集後記

新型コロナウイルス感染症が流行し、附属坂出学園の各学校園においても今年度は4月・5月のほとんどが臨時休業となりました。しかしながら、子供たちは毎日成長しています。コロナ禍の中、どんな学びを提供できるのか、安心して学べる環境を可能な限り整えて、一人一人の学びを止めることなく取り組むためにできることは何か、と考えながら日々工夫した実践を行っています。

合同運動会をはじめ多くの行事や取り組みが中止または規模縮小となったこともあり、「学園だより」の発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

発行年月日：2020.11吉日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出学園